Press Release

別紙資料

■「ジェンダー平等や働きがいにおける、日本のSDGs（5）と（8）の実態調査」

アンケート結果詳細（プレスリリース https://corp.taskaji.jp/release/2020/12/25/sdgs-survey0001/）

（1）家庭内での家事分担について（対象：依頼者）

（1－1）「妻」と「夫または男性パートナー」が担当している家事量の割合と、妻から見た割合の満足度

Q. 全家事業務のうち、「妻」と「夫または男性パートナー」がそれぞれ担当している家事量の割合を教えてください。
また、妻から見て割合に満足していますか？

	どちらの割合も満足している (n=97)		妻の割合は満足しているが、夫または男性パートナーの割合は満足していない (n=19)		妻の割合は満足していないが、夫または男性パートナーの割合は満足している (n=28)		どちらの割合も満足していない (n=93)	
	妻	夫	妻	夫	妻	夫	妻	夫
100%（全部担当している）	7.2%	1.0%	5.3%	0.0%	14.3%	0.0%	20.4%	0.0%
75%以上	32.0%	4.1%	42.1%	10.5%	64.3%	0.0%	55.9%	1.1%
50%以上	55.7%	26.8%	42.1%	21.1%	17.9%	10.7%	18.3%	5.4%
25%以上	4.1%	56.7%	10.5%	42.1%	3.6%	71.4%	4.3%	53.8%
0%（ほぼ担当していない）	1.0%	11.3%	0.0%	26.3%	0.0%	17.9%	1.1%	39.8%

＜（1-1）の理由＞

割合に対する満足度	理由（一部抜粋）
どちらの割合も満足している	＜分担決め、得意不得意の理解について＞ ・お互い担当を決めて動いているので不満が少ないため。 ・相手が苦手なことを補完し合っている満足感が大きい。 ・それぞれの得意なところを分担してきるから。これ以上だとレクチャーしないといけないので、フォローも含めて負担に感じる。 ＜現状の生活からの納得度について＞ ・（妻の仕事が）比較的時間の融通が効きやすく、平日の家事をほぼ担当している。その分土日は夫がメインで家事をしてくれているため、良い分担ではないかと考えている。 ・在宅している時間に応じた家事分担となっているから。 ・家事の割合は、勤務時間から仕方なく落ち着いた感じで満足している。 ・仕事の時間と家事の時間を合わせると夫婦がほぼ同じ時間を費やしており、お互いがやれるベストと思っている。 ・現状これ以上夫の家事負担を増やすのは難しいため。 ＜家事代行の利用＞ ・大変な家事はタスカジ利用・家電利用しているので、それ以外は自分（妻）が全部してもそこまで大変ではないから。夫が家事は適当でよいというスタンスだから。 ＜その他＞ ・私100、夫ほぼ0から、8年を経て70-30まできたので、こんなものかと思っている。 ・年収に差があるため、家事割合の差は仕方ない。
妻の割合は満足しているが、夫または男性パートナーの割合は満足していない	＜夫または男性パートナーの家事参加・意識について＞ ・夫にもっと家事に参加して欲しい。 ・出来る事はしてほしい。 ・共働きで、私（妻）の方が早朝に残業したりと忙しいので、夫にもっと家事・育児を担ってもらいたい。 ・家にいる時間の違いで、基本的には割合に納得しているし、休日には色々してくれることも多いので、不満という程ではないものの、もう少し自分から手を出しに来てくれてもいいのになとは思う。 ・名前もないような家事は、結局自分（妻）しかしていない。 ・自分の役割なのにやらない。結局こっち（妻）がやることに。 ・パートナの協力なし。 ・片付けをやらないので負担が大きい。 ＜その他＞ ・不満はあまり口にしないが、夫が疲れた様子なので負担なんだろうなと感じている。（夫担当家事：夕食(火)～(金)、小1子どもの帰宅後の世話 ＊夫はほぼ在宅勤務のため） ・夫は家事をしてくれるがクオリティが低い。
妻の割合は満足していないが、夫または男性パートナーの割合は満足している	＜夫または男性パートナーがする家事の内容について＞ ・夫の家事の完成度が上がるとこちらの仕事が減る。 ・お掃除好きの主人が週1回家中のお掃除をしてくれるので。 ・料理をしてくれるのが特に助かる。待ったなしの家事なので。 ＜仕事や育児とのバランスについて＞ ・配偶者（夫）も仕事が忙しい中でも頑張ってやってくれているので。 ・自分（妻）の家事の割合は減らしたい。一方で、夫はできる範囲で休みの日は家事をやってくれているので満足している。 ・仕事の忙しさからできる限りしてくれていると思うが、自分の負担をもっと減らしたい。 ・自分の負担が大きく感じるけど、夫も大変だし家事を頼みづらい。 ・家事はしないけど、育児はまあまあやってくれているので頑張って納得している。 ・家事が苦手なので、負担が大きく感じる。夫は食器洗いは全て担当してくれていて、言ったことは何でも文句を言わずにやってくれる。頼まないとやってくれないことに不満はあるが、十分やってくれているとは思う。休みの日はほぼ全てごはんを準備してくれる。 ＜その他＞ ・夫が大黒柱なので仕方がない ・結局のところ最終責任を負うのは女性である。
どちらの割合も満足していない	＜家事のスキルについて＞ ・夫ではできない家事が多い。 ／ ・時間ではなくやり方が。。。 ・非定型家事は妻が実施するしかなく、定型家事も満足に夫がしない場合もあるため。 ＜夫または男性パートナーの家事意識・理解について＞ ・もっと自主的に夫に家事をして欲しい ／・共働きなのに家事のほとんどを私(妻)がしている ・小さい子供が3人いるにも関わらず、家事全般すべて1人でやっているから。 ・前よりは夫も家事を手伝ってくれるようになりましたが、もう少しやってほしい。手伝うというスタンスではなく、自分の仕事という認識になって欲しい。 ・妻が家事をする、という世の中の当たり前が納得いかない。 ・自分の負担が大きいが夫の理解も得られない。 ／ ・男女差が不公平 ＜家事分担のしかたについて＞ ・できる方がやるスタイルで明確に配分は決まってないが、繁忙期などで比重が片寄りすぎると不満が出てくる。 ／ ・話し合いの元に家事分担されているわけではないから。 ・見えない家事が増えたり変化しているコトを共有出来ていない。時間もない‥。 ＜家事量が多いことでの負担について＞ ・共働きで夫婦でシェアして家事と育児をしているが、どちらも自由時間が持てないくらいに忙しい。 ／ ・もっと自分も相手も楽にしたい。 ・フルタイムの共働きには家事の量が多い ／・家事を減らせばもっと効率的に働けるから ＜その他＞ ・私のみ在宅勤務になり家事の分担量が増えた ／ ・給料はほぼ同額なのに納得いかない

（１－２）「妻」と「夫または男性パートナー」の平日・休日それぞれの家事の関与時間

Q. 「妻」と「夫または男性パートナー」の
平日と休日の家事の関与時間を教えてください。
(n=237)

	妻（平日）	夫（平日）	妻（休日）	夫（休日）
なし	0.0%	15.6%	0.0%	10.5%
30分未満	5.9%	40.9%	3.8%	29.1%
30分以上1時間未満	13.5%	27.4%	7.6%	26.6%
1時間以上3時間未満	57.8%	16.0%	54.9%	29.5%
3時間以上	22.8%	0.0%	33.8%	4.2%

平日・休日ともに、妻の方が夫より家事の関与時間が多いという結果になりました。
また、この（１－２）の結果をもとに、妻と夫の１日あたりの家事の平均関与時間(*1)を算出したところ、

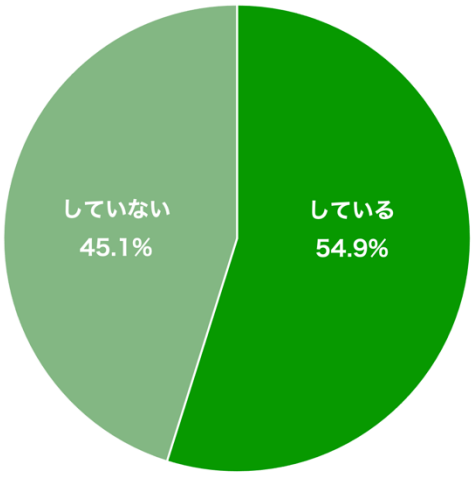
【平日】妻：約 117 分、夫：約 38 分
【休日】妻：約 131 分、夫：約 59 分

という結果となり、**平日・休日ともに、妻の方が夫より「約１時間以上」長く家事をしている**ことがわかりました。

(*1) 回答している「家事の関与時間」のちょうど中間の時間で算出。＊3 時間以上は 3 時間、なしは 0 分で算出。
（なし…0 分、30 分未満…15 分、30 分以上 1 時間未満…45 分、1 時間以上 3 時間未満…2 時間(120 分)、3 時間以上…3 時間(180 分)）

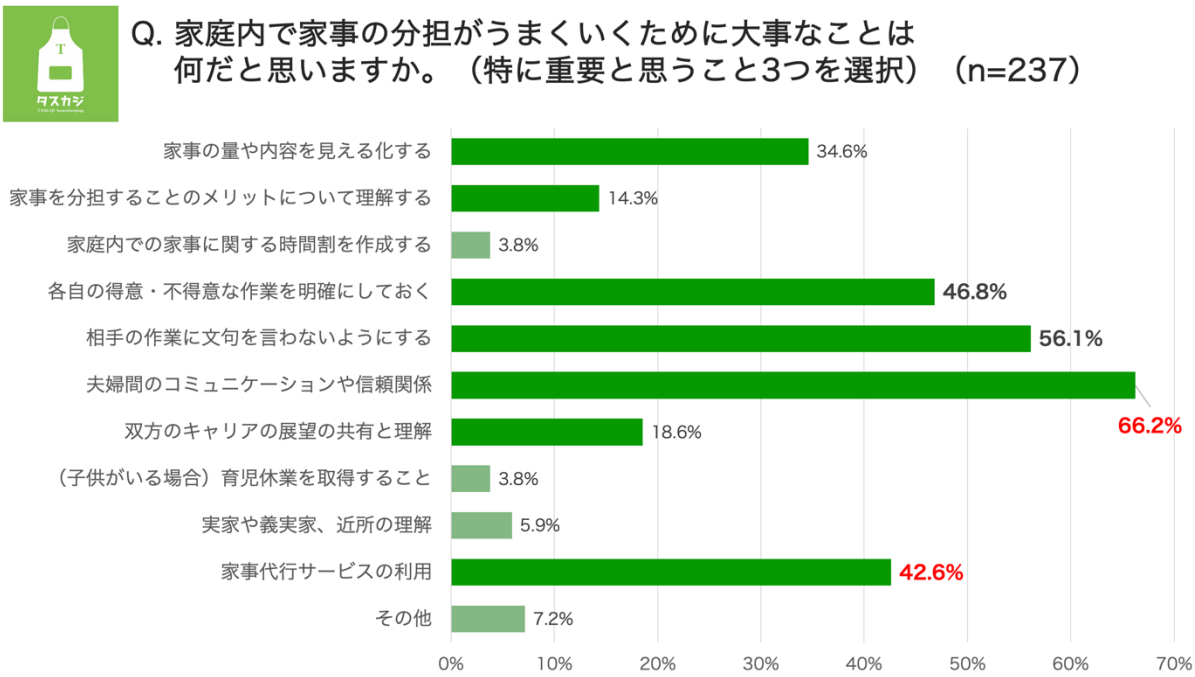
（１－３）家事の分担、それぞれの役割について家庭内で話し合いをしていますか？

Q. 家事の分担、それぞれの役割について
家庭内で話し合いをしていますか。
(n=237)



家事分担や役割について、**家庭内で話し合いを「している」と回答した人が過半数以上いる**ことがわかりました。

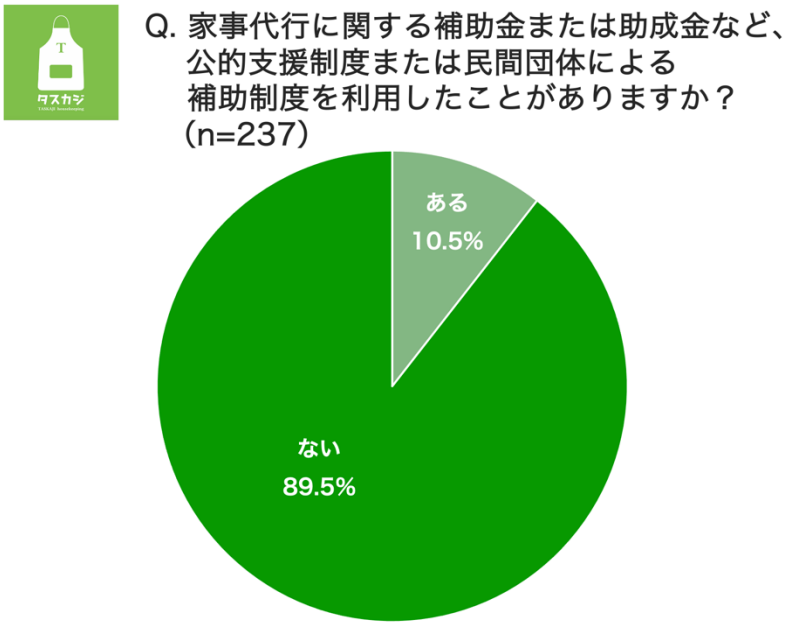
（１－４）家庭内で家事の分担がうまくいくために大事なことは何だと思いますか。（特に重要と思うこと３つを選択）



１位は「夫婦間のコミュニケーションや信頼関係」で 66.2%の人が重要だと回答、続いて２位は「相手の作業に文句を言わないようにする」が 56.1%、３位は「各自の得意・不得意な作業を明確にしておく」で 46.8%、**「家事代行サービスの利用」が４位で 42.6%**という結果となりました。
その他としては、「どちらかに負担が偏らないように話し合い」「家族それぞれが出来る家事を増やすこと」「夫の意識改革」「子供にも手伝わせる」「第三者の力を借りる」「旧来態勢である「男女間の役割分担」といった価値観が社会全体で見直されていくこと」などの回答がありました。

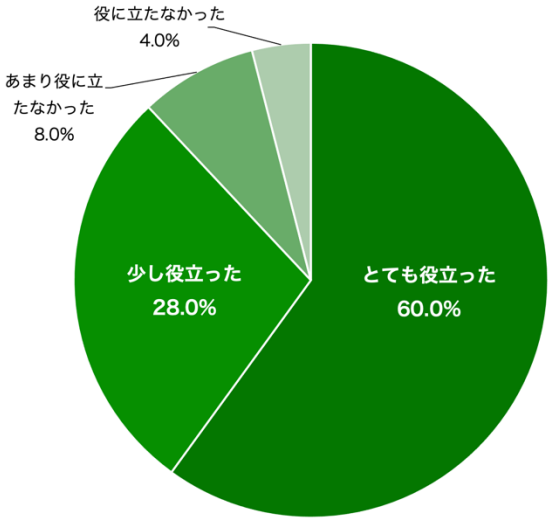
（２）補助制度の利用について（対象：依頼者）

（２－１）家事代行に関する補助金または助成金など、公的支援制度または民間団体による補助制度を利用したことがありますか？



（２－２）「補助制度を利用したことがある」と回答：支援または補助は、家事代行の利用促進にどの程度役立ちましたか？

Q.【「補助制度を利用したことがある」と回答した方】
支援または補助は、家事代行の利用促進に
どの程度役に立ちましたか？（n=25）



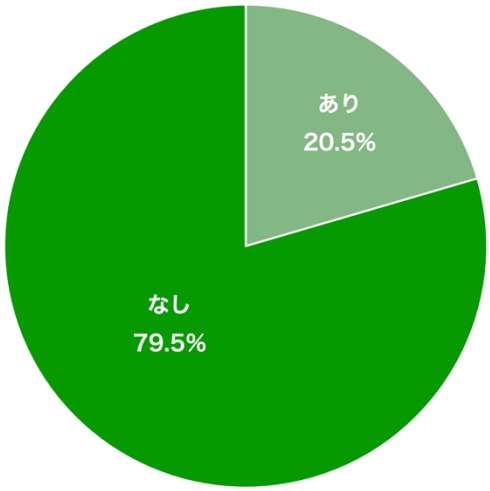
その他、「これまでに利用した公的支援制度で特に役に立った、または有効だった制度があれば教えてください（自由回答）」という質問では、
・会社の福利厚生
・出産祝いで会社からもらった、家事代行サービス依頼チケット
・自治体などで提供している産前産後の家事援助サービス
・シルバー人材派遣、ふれあいサービス
といったものがあがりました。

家事代行の補助制度を利用したことがないだけでなく、「家事代行の助成金なんて知らなかった」という意見もあり、ベビーシッターの補助制度と比較しても、家事代行の補助制度の認知はまだまだされておらず、本当に必要な時に使えなかった人も多数いるのではと推測します。

（3）育児休業の取得について（対象：依頼者）

（3－1）夫または男性パートナーの育児休業の取得有無について

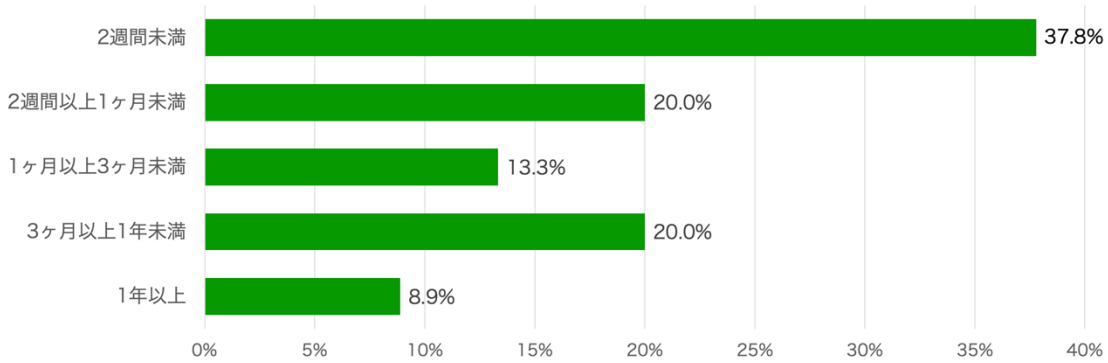
Q.【お子さんがいらっしゃる方にお聞きします】
夫または男性パートナーの育児休業の
取得有無を教えてください。（n=210）



79.5%もの人が、育児休業の取得を「していない」と回答。

（3－2）「育児休業の取得あり」と回答した人の育児休業取得日数（累計）

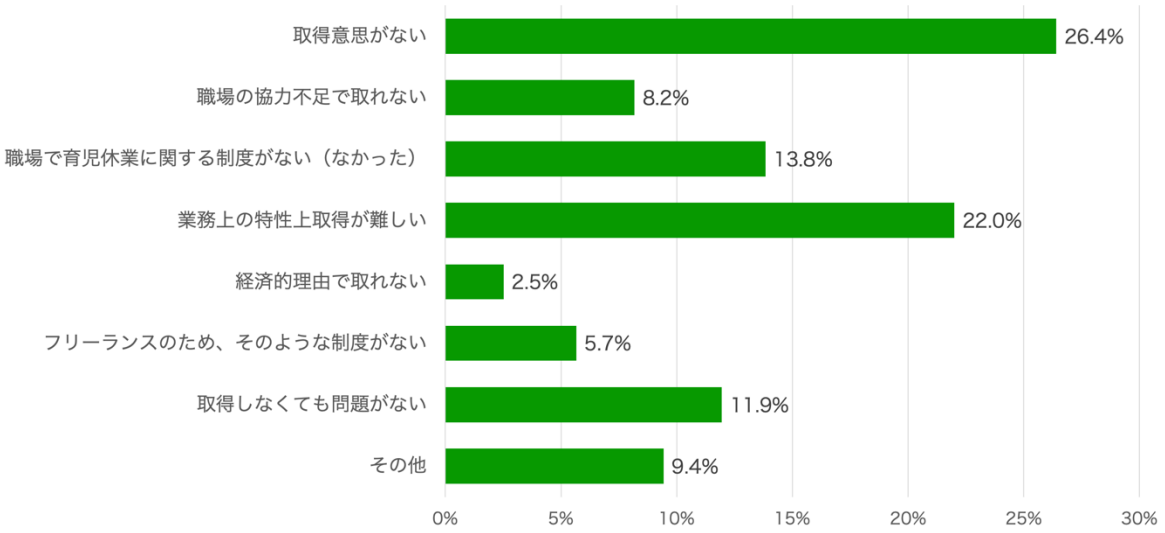
Q. 【夫または男性パートナーの育児休業の取得が「あり」と
回答した方】夫または男性パートナーの育児休業取得日数
（累計）を教えてください。（n=45）



夫または男性パートナーで育児休業を取得したことがある人の約 38%は「2 週間未満」と回答。出産直後の育児のためには十分な日数とは言いがたく、短いように感じられる。一方で、約 29%の人は 3 ヶ月以上取得しており、育児休業の取得日数には人によって大きな開きがあることがわかります。

（３－３）「育児休業の取得なし」と回答した人の取得しない理由

Q. 【夫または男性パートナーの育児休業の取得が「なし」と回答した方】夫または男性パートナーが育児休業を取得しない理由を教えてください（n=159）



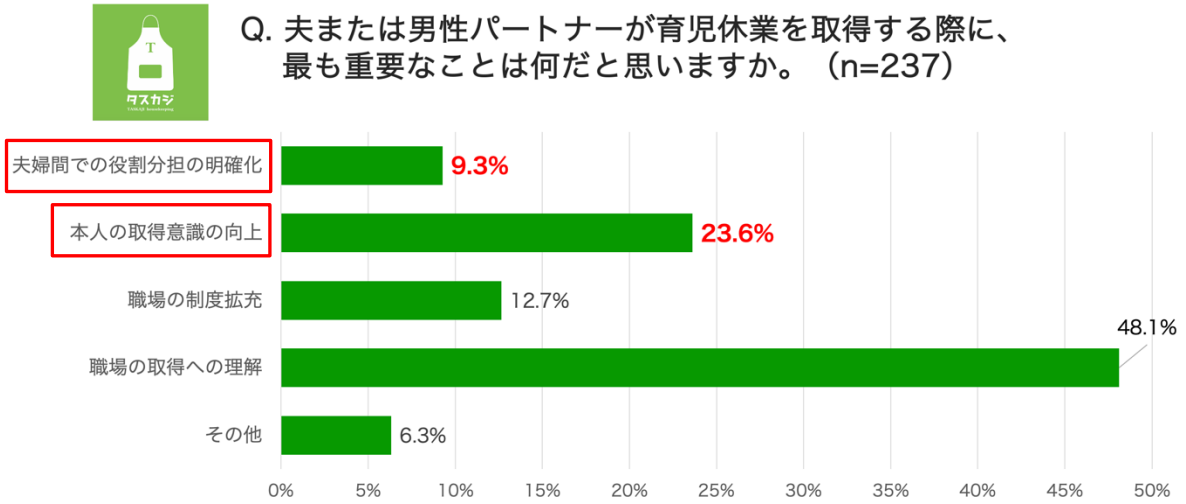
その他の意見としては、下記のようなものがありました。

（３－４）「育児休業の取得なし」と回答した人の取得しない理由（自由回答）

「その他」を回答した方にお聞きします。
夫または男性パートナーが育児休業を取得しない理由を具体的に教えてください（自由回答、一部抜粋）

	理由
育児休業以外の方法	・日中は特にやることがないので、育児休業より定時で帰宅してくれたり時短勤務をしてくれると助かる。 ・子どもが3カ月になるくらいまでは、夫がフレックスを利用して、午後もしくは午前のどちらかは在宅で仕事をしながら育児を手伝ってくれていた。 ・予定外の早産で業務調整的にも育児休暇より半休やフレックスの方が家事育児業務ともやりやすかったため。 ・夫が大学教員をしており、ちょうど長期休暇中に子どもが生まれたので取得の必要がなかった
収入面・業務面	・育休取得で収入が半減されては困るので。 ・仕事を休みたくない考えが根本的にある、休む怖さ、休みに育児助かれば良いという考え。 ・有給休暇がたくさんあるのでそれを使用すれば問題なし。育休を取得すると、夫の出世や生涯年収に影響するため。
仕事上の立場	・経営者のため制度として特にない、休みが取れない ・主人の仕事の代わりがいないので。
夫以外のサポート	・実家と近況なので、助けてもらえるから。 ・里帰りしていたので、必要ないと考えていたと思います
制度・タイミング	・当時はその制度がなかった ・タイミングを逃してしまった。
その他	・男は仕事と思っている。 ・私が専業主婦だから。 ・育児休業をする思考回路がないと思われます。 ・もう20年以上前の事ですが、女の私が仕事を辞めて家事育児を担う流れに疑問を持つ余裕も無かった。今思えば、もっと男性が参加してやるべきだと思う。

（3－5）夫または男性パートナーが育児休業を取得する際に最も重要なこととは。



半数弱の人が「職場の取得への理解」と回答しており、制度のより一層の浸透が望まれますが、一方で、「本人（夫）の取得意識の向上」が 23.6%・「夫婦間で役割分担の明確化」が 9.3%と、**合計で約33%の人は、制度の理解や拡充といった外部環境よりも、『夫自身の意識』や『家庭内での役割分担』など、家庭内の内部環境が整わないと制度があっても活用できないと考えている**ことがわかりました。
また、その他の回答を見ても、同じようなコメントが多数ありました。

（3－6）夫または男性パートナーが育児休業を取得する際に最も重要なこと（自由回答）

「その他」を回答した方にお聞きします。
夫または男性パートナーが育児休業を取得する際に最も重要なことは何だと思いますか（自由回答、一部抜粋）

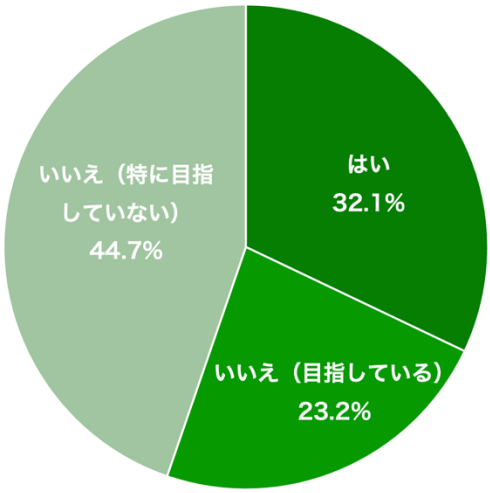
	詳細
収入面	・休業中の収入減の補填 ・ポジション維持と手取り額補助
法整備	・法で育休取得を強制し、且つ今の育休給付の基準で収入が半減しては暮らせないので水準を維持した給付を行う必要があると思う ・取得の義務化
「夫自身」の育児休業取得目的の理解	・**休暇中に何をするのかを男性側がよく考えておくべき**だと思う。育児休暇中は、**洗い物や洗濯やおむつ替えなどちゃんと手伝ってくれるなら良いと思う。**（育児休暇を取っても家事育児を全くせず、逆に食事などの家事の負担が増えた上に、ゴロゴロされてストレスが溜まって大変そうな話を聞いたことがある） ・育児の大変さを共有する意識 ・**子育てへの主体的な姿勢**。じゃないと何をするにも休みを取得したとしても、意味がないと思う。 ・**何のために取得するのかを本人も周囲も理解すること**(休業はするが休暇ではない、**大事なミッションがある**)
社会全体の理解	・産後3ヶ月育児をしてみる経験自体が、男女問わず生きる上で価値のあることだという前提の社会共有 ・社会の男性性に対する思い込み、偏見の是正 ・必要性を感じないとうまくいかないように思う。 ・男性が育児休業を取得できることを知らない社員が多く、従って職場の理解さえされるはずがない
補助人材の確保	夫の会社の女性従業員がわが家の出産と同時期に出産が続き、彼女たちの仕事（4人分）を一手に引き受けた夫は休めませんでした。女性は出産をするのだから産休・育休がとれますが、それをカバーする人が休めない。
家事面	**家事の分担**
フリーランスの立場から	・フリーランスにも育児休暇が必要 ・社会的に認知され受け入れられること。特にフリーランスは制度がどうかより社会的に受け入れられているかが鍵になる
その他	・取得する必要はない

法整備や収入面、職場の理解など乗り越える課題はあるものの、一方で、**「夫または男性パートナー自身が、育児休業を取得する際に家庭内で何が求められているのか・何をするのかなど、自分で主体的に考えて動くこと」**がとても重要である、また**「家事の分担」**も重要であることがわかりました。

（4）働きがい、仕事における家事の位置付けについて（対象：依頼者）

*（4－1）現在仕事でリーダー的な地位（*2）にいるかどうか、タスカジユーザーの割合*

Q. あなたは、現在仕事で
リーダー的な地位にありますか。
（n=237）



回答したタスカジユーザーの
過半数以上の 55.3%もの人が、
仕事で
「現在リーダー的地位にある」
または
「今は違うが、リーダー的地位を目指している」

（*2）（4－1）で質問している「リーダー的な地位」とは、「社会のあらゆる分野において、2020 年までに、指導的地位に女性が占める割合が、少なくとも 30%程度になるよう期待する」という政府目標（いわゆる『2020 年 30%』の目標）における「指導的地位」の定義を基に、ここでは次の①～④に該当する方を表します。①議会議員、②法人・団体等における課長相当職以上の方、③専門的・技術的な職業のうち特に専門性が高い職業に従事する方（代表例として、大学において 6 年間の専門教育を必要とする医師、歯科医師、薬剤師、獣医師、及びこれに準ずるものとして弁護士、会計士、研究者、記者など）、④起業準備中の方（＊フリーランスは含みません）

「現在、リーダー的な地位にいる人」「まだリーダー的地位にいないが、目指している」「リーダー的地位におらず、目指していない」の 3 つのグループに分けて、さらに深掘りをしてみました。

（4－2）家事代行の利用頻度

Q. 家事代行はどの程度使っていますか。

	現在、リーダー的な地位にいる（n=52）	まだリーダー的地位にいないが、目指している（n=42）	リーダー的地位におらず、目指していない（n=70）
週1回以上	30.8%	11.9%	12.9%
2週に1回	32.7%	23.8%	21.4%
月に1回	15.4%	19.0%	20.0%
不定期（月1回未満）	21.2%	45.2%	45.7%

現在リーダー的な立場で仕事をしている人は、「週 1 回以上」「2 週に 1 回」の割合が高く、他 2 つのグループに比べて、家事代行の利用頻度が高いことがわかります。

（4－3）キャリアを築いていく上で、家事代行の利用は有効か

Q. 家事代行を利用することが現在の仕事で
リーダー的な地位を目指す上で有効でしたか、
または有効になっていますか。

	現在、リーダー的な地位にいる（n=53）	まだリーダー的地位にいないが、目指している（n=41）	リーダー的地位におらず、目指していない
有効	43.4%	24.4%	－
どちらかといえば有効	39.6%	51.2%	－
どちらかといえば有効ではない	3.8%	9.8%	－
有効ではない	13.2%	14.6%	－

現在リーダー的地位にいる人の 83%、また、**まだリーダー的地位にいないが目指している人の 75.6%** の人が、「有効」または「どちらかといえば有効」と回答。
キャリアの維持、またはキャリアアップの実現のためには、家事代行の利用は有効な手段の一つと認識している人が多いことがわかりました。

（4－4）キャリアを築いていく上で家事代行の利用は有効と思う理由（自由回答）

家事代行を利用することが現在の仕事でリーダー的な地位を目指す上で有効でしたか、または有効ですか。
（自由回答、一部抜粋）

	理由（有効・どちらかといえば有効）
時間の確保	・自由に使える時間が増えている ・人に頼る事で時間と心に余裕が生まれ、仕事に集中できる。 ・そもそもフルタイムで勤務しながら家事をすることが難しいため、家事代行をたまに利用することでスタートラインに近づけるため。 ・短時間勤務にせず、フルタイム勤務として、業務時間を確保できる点においては有効。 ・生活の質を向上させながら、仕事時間の確保ができる。 ・自分の仕事時間やスキルアップのための時間を確保できる。
精神面	・生活の質が向上しやる気が出る。 ・家事の心配、段取りする分の時間や精神的負担を仕事に向けられる。 ・家事のやり切れていない部分について割り切ることができ、仕事に集中できる。 ・家事をしなければという強迫観念から逃れられるから。 ・家庭でのストレス軽減
仕事面	・安心して仕事に打ち込める。 ・どうしても出席しなければいけない就業時間後の仕事の時、仕事が忙しい時に、助けになるから。 ・家事時間を物理的に減らさないと業務がまわらないため。 ・家事のストレスが減ることで、仕事に集中できる。 ・体力的に余力ができるため、仕事への集中力があがる。 ・職場でも整理整頓がしやすくなった。気持ちに余裕が出来るので利用した日から数日は気持ちが楽。 ・キャリアアップに専念できるから。
家事面	・家族が増えれば洗濯物も増えるし、調理量もお皿洗いも増える。家事代行の方がいなければ、キャリアは全く目指せなかった。外でも家でもバリバリ働くなんてできない。 ・管理職は会社の滞在時間が長い。また高校生の子供は朝早くからお弁当が必要だったりテスト期間など昼食の準備が必要。食べる量も多いため、自分だけでは手が回らない。お惣菜やお弁当も飽きる。 ・料理作りおきなので、一週間分程度作っていただくことで、自分の家事時間が減少するから。
その他	・生活面でも得意分野を活用した他者が入ることで「チーム」として動くためのマネジメントの実践練習になる。

（4 － 5）家事代行と、仕事でリーダー的地位を目指すことのつながりとは。

Q. 家事代行を利用することが現在の仕事で
リーダー的な地位を目指す意識の変化に
繋がりましたか？

	現在、リーダー的な地位にいる（n=53）	まだリーダー的地位にいないが、目指している（n=41）	リーダー的地位におらず、目指していない
繋がった	11.3%	12.2%	－
どちらかといえば繋がった	26.4%	41.5%	－
どちらかといえば繋がらなかった	17.0%	19.5%	－
繋がらなかった	45.3%	26.8%	－

「家事代行を利用することが、リーダー的な地位を目指す意識の変化に繋がっているか」の質問に対し、**まだリーダー的地位にはいないが目指している人の過半数以上、53.7%が**「繋がっている」「どちらかといえば繋がっている」と回答。
家事代行の利用により、時間や心に余裕が生まれたことで、より一層仕事に集中したり新しい目標を立ててそれに向かうことに繋がっているというコメントもあり、**女性がキャリアアップを目指す意識変革の要因のひとつとして、家事代行の利用が上げられる**ことがわかりました。

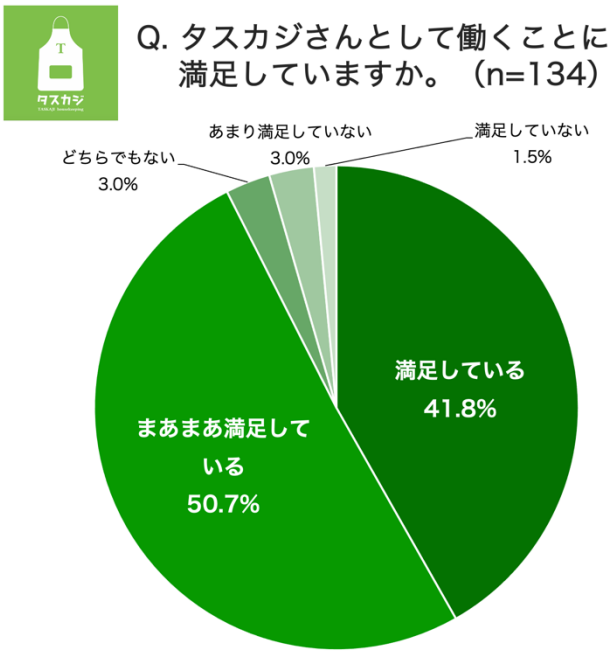
（4 － 6）家事代行と、仕事でリーダー的地位を目指すことのつながりとは。（自由回答）

家事代行を利用することが現在の仕事でリーダー的な地位を目指す意識の変化に繋がりましたか、または繋がっていますか？
（自由回答、一部抜粋）

	理由（繋がった・どちらかといえば繋がった）
割り切り・選択肢	・全て一人で抱え込まない、協働意識など、社会構造を考える感覚として役立っていると感じる ・自分で全てをやる必要はないと割り切れた。 ・「お金で解決する」という選択肢が得られた。もちろん、頻度高くなると経済的な負担と準備が多くなるため、完全ではないが。
仕事面	・仕事に使える時かが増え、考える余裕が生まれる。 ・自分の仕事に少しでも専念（集中）できる時間を増やすことにつながった。 ・時間や気持ちの余裕が出来たおかげで、新しい目標をたてることができた。 ・家事で時間に追われてキャリアを諦めてしまわなくて済む ・意識という面では繋がっているかも。なぜなら月１で家事をお願いすることにより出来た心の余裕が仕事への集中度合いに関わってくるので。
精神面、モチベーション	・家事を人にやってもらっている分、仕事を頑張ろうと思えるから。 ・自身で会社を経営していますが、それに向けて昼夜を問わず働きづめでしたが、家に帰れば美味しい食事があり、家が綺麗に整理整頓されている、というのは精神衛生上大変助かっていた。 ・時間ができたから。 ・気持ちに余裕がでる。 ・家事における思考や選択疲れを減らす。 ・勉強できる時間が増え、向上心が芽生えた。 ・お金かけて利用するなら目指さないととプレッシャーがある。 ・仕事に力を入れたい気持ちと、家事をきちんとこなしたい気持ち、子供に冷凍食品やお惣菜ではなく手作り感のある食事を食べさせたい気持ちを両方満たしてくれるから。子供に対する罪悪感みたいなものが少なくなる気がする。
収入面	・家事代行にかかる費用以上の成果を仕事で出そうという意識が生まれた ・誰かに助けてもらっているという意識と、家事代行にかかる費用面からもそれに見合う働きをしなければと考える。
その他	・家事もプロジェクトとして「チーム」で動くことの有効性を知ったことで、仕事でもプロジェクトリーダーとして「チーム」として成果をあげる必要性やコツを考えるきっかけになったから。

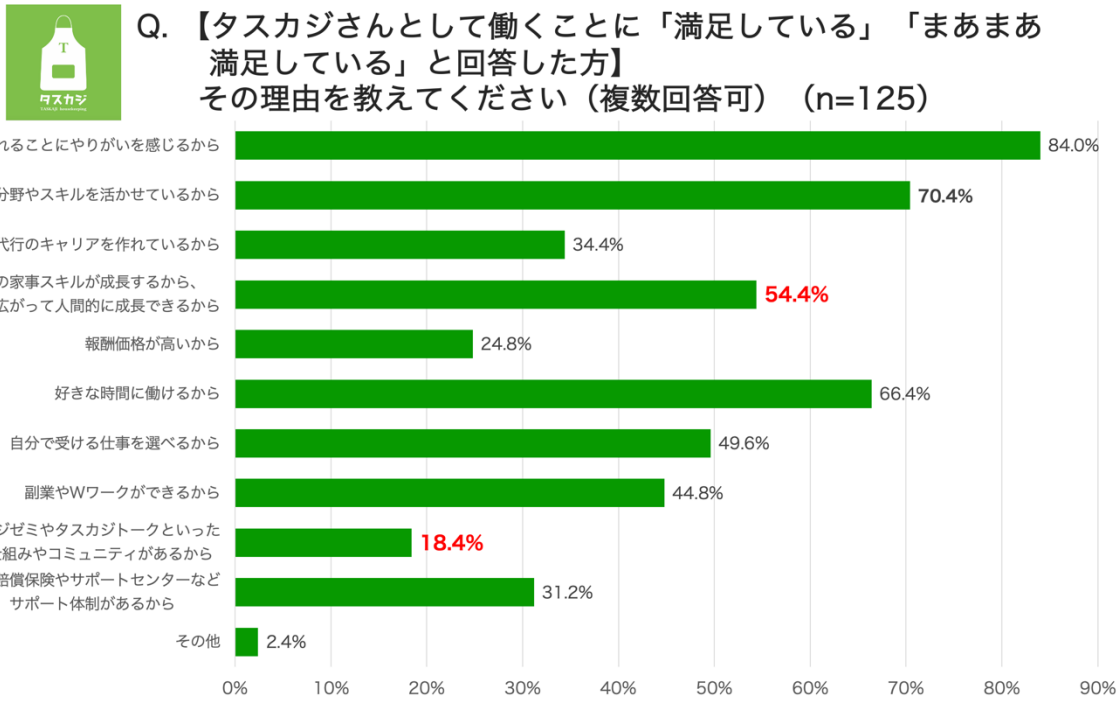
（5）ハウスキーパー向けアンケート（対象：タスカジさん）

（5－1）「タスカジさん」という働き方の満足度



回答した**タスカジさんの 9 割以上、92.5%**もの人が、タスカジさんとして働くことに「満足している」「まあまあ満足している」と回答し、非常に満足度が高いことがわかりました。

（5－2）「タスカジさん」という働き方に満足している理由

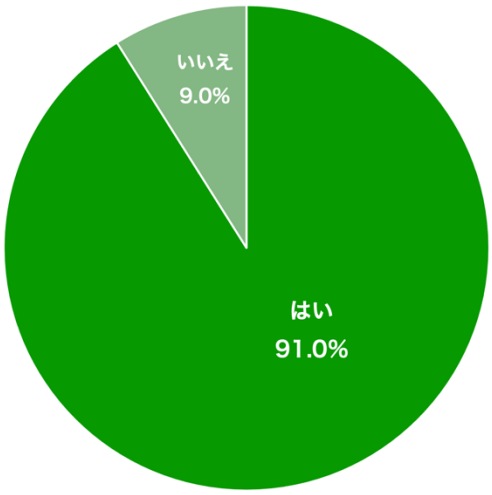


タスカジさんとして働くことに「満足している」「まあまあ満足している」の理由として、「依頼者との関係性」「得意分野を活かせる」「好きな時間に働ける」などタスカジサービスの特徴に価値を感じると同時に、**半数以上がタスカジさんとして働くことは「スキル・人間性の成長」になっていると回答。「タスカジゼミ」や「トーク」といった自主的に学んで成長する仕組みやコミュニティ**にも価値を感じているなど、**タスカジを「成長できる場」**として考えていることがわかりました。

その他の理由としては、
・評価を記入していただくことで、初めて自分の評価や存在が公になった。はじめて社会的にも人としても認められた気がした。
・他の家事代行に比べて圧倒的に時間外労働がない
・生き方自体変わった
などがありました。

（5－3）「タスカジさん」として働き始めてからの家事スキルについて

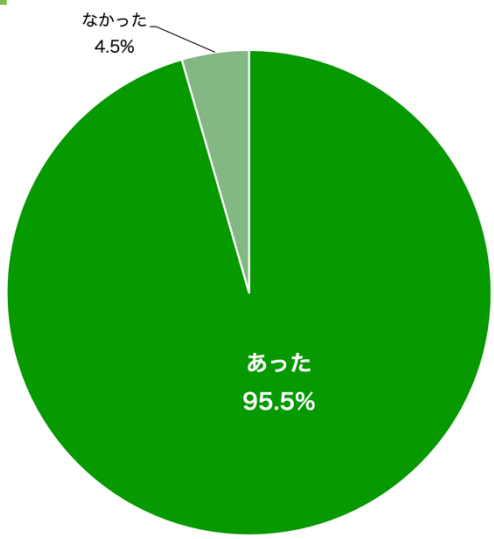
Q. タスカジさんとして働き始めてから
現在まで、自身の家事スキルは
成長したと思いますか。（n=134）



9 割以上、91％ものタスカジさんが、タスカジさんとして働き始めてから現在まで、自身の家事スキルが成長したと回答。

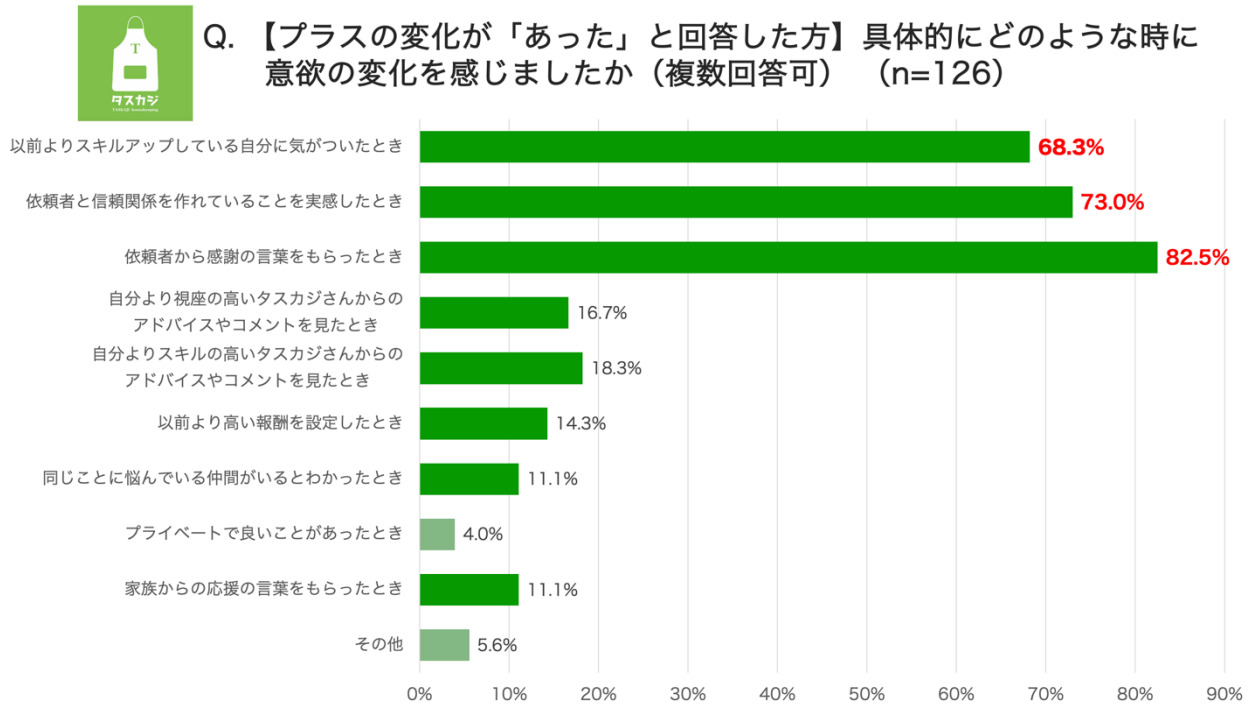
（5－4）「タスカジさん」として働き始めてからの自身の成長意欲の変化について

Q. タスカジさんとして働き始めてから、
自身の成長意欲にプラスの変化は
ありましたか。（n=134）



自身の**成長意欲にプラスの変化があったと回答した人は 95.5％**で、非常に高い数字となりました。

（5－5）「自身の成長意欲にプラスの変化があった」と思う理由



（5－6）「自身の成長意欲にプラスの変化があった」と思う理由（自由回答）

「その他」と回答した方
具体的にどのような時に意欲の変化を感じましたか（自由回答、一部抜粋）

	理由
仕事を通じての自信	・資格を習得出来た。 ・タスカジさんになってから、今までは掃除は得意とは思っていなかったが、得意と言えるくらいになったと感じる。そして依頼者様にどのように困っているのか、何を掃除したいのかなどをヒアリングした時に、私ならこのようにします、などの積極性が格段にアップしたと感じる。 ・強い洗剤を使わず、ナチュラルクリーニングを中心に行っているので、依頼者様からの満足度を伺った時は本当に嬉しく、またお困りの方達をもっとお手伝いしたい、と常に思うようになった。 ・明らかに掃除で空間が綺麗になったとき。 ・定期のお仕事でいつも同じところを掃除している中で、ふと新しい掃除に気づいたとき。 ・将来、やりたい事が見つかった
人とのコミュニケーションを通じての実感・刺激	・仕事を頑張っている依頼者さんを見た時、自分も頑張ろうと思った。 ・依頼者様のお子様の成長を目の当たりにした時。 ・タスカジ感謝祭に参加し、皆さん忙しい中にも関わらず、新しいことにチャレンジしたり常に楽しんでいるんだなと感じた事が凄く刺激になった。 ・タスカジを通して（間接的だったとしてもお客さんをサポートすることによって）確かに社会活動に参画していると実感できたとき。
考え方の変化	以前の職場では誤解やストレスを感じることがあったが、タスカジでは無理をするのではなく、自分らしさを考えて仕事をしてみようと考えることが出来るようになった。

（5－7）「自身の成長意欲にプラスの変化があった」について、行動や言動の変化の具体例（自由回答）

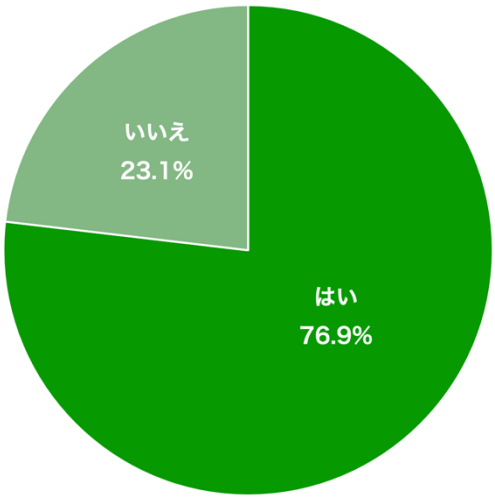
タスカジさんとして働き始めてから、自身の成長意欲にプラスの変化が「あった」と回答した方
実際に行動や言動にどのような変化がありましたか。具体的にお書きください。（自由回答、一部抜粋）

	行動や言動の変化詳細
勉強	・自ら家事について調べたり、時短テクニックや裏技などを学ぶようになったから。 ・依頼者さまの希望に出来るだけ応えられるように図書館で本を借りたり、購入したり勉強するようになった。 ・もっと喜んで頂けるように努力するようになった。 ・整理収納の仕事に役立つ資格を取得しようと勉強をして資格を取得できたから ・料理のみ担当していますが、ユーザーのニーズに応えられるように積極的に勉強会（料理教室など）に参加したり、レシピを増やすように努力している（テレビの料理番組を視聴など）こと、食品に対する知識も積極的に受け入れるようになったこと。 ・疑問点を調べる様になった。 ・資格の勉強を始めた ・資格よりも経験(11年)が大事と思ってやって来たが、今回、1級資格取得に挑戦しました。結果はこれから分かりますが、ご依頼者様に安心してお仕事をいただけるように、名実ともに力を付けたいと思うようになりました。 ・タスカジの講座に参加したり、お掃除の仕方などを勉強したくなった **<タスカジゼミ>** **・タスカジゼミ参加によるスキルアップ等**
コミュニケーション	・事前の確認などで、依頼者様との間に信頼関係が出来た。 ・色々な家庭に行くことによって様々な悩みや問題があり、それを解決するために柔軟に考えれるようになった。その引き出しも増えてきた。 ・マイナスの言葉を言わないように心がけるようになった（汚いですね→きれいになりますよ）（できません→●●ならできます） ・個性や自分の意見を言いすぎないように気をつけるようになった（もともと好みや美意識に偏りや拘りのある人間なので） ・家族にも今までより家事について話をするようになった。 ・友人と話しをしても、仕事の愚痴が出てこなくて前向きな言葉しかでないです。
意識	・家事手伝いとしての掃除の仕事は誰でもできるものではなく、時間内に顧客ニーズを把握しゴールに持っていくという掃除スキル以外にコミュニケーションをはかり段取りを考え組み立て実際にこなす総合的な力が必要なことが分かり、友人たちに家事手伝いで掃除をしていることを恥ずかしくなく言えるようになった。 ・常にお仕事に生かせる情報を収集し、出来る事は即、自宅で何度も試してみたり模索しながら、より良い形で依頼者さまのお手伝いができるよう、心構えや責任感の持ち方が変わりました。 ・外の世界と接する事で視野が広がり、自分にも出来ることがあると気づけた事 ・日々、多く接する様々な依頼者さまの行動・言動・思想にも見習うべきことや新しい知識が詰まっていて、おすすめいただいたことを試してみたり、素敵な言い回しを真似して自分のものにしていったりするような変化がありました。 ・少しでも気になったことに対する意識が変わった。 ・プロ意識が芽生えた ・受けてきた依頼の全てに学ぶことがたくさんあります。成功した時はそれがタスカジさんとしての活動と自分のスキルに自信がついたと確信できますが、依頼者様の要望に答えられなかった時などの失敗したと感じたことは、もっと改善できることがあったのではと次に活かせる経験ができたと前向きに捉えられているからです。その気持ちは依頼者様からの評価や、依頼の入りかたに大いに関係していると思っています。 ・タスカジさんとして働くまではお願いされたことだけをこなしていましたが、リピーターさんのお仕事で手順が慣れてきたら、プラスアルファでできる事を探して時間内に作業を収めるよう心がけるようになりました。
仕事・スキル	・3時間で作り置きを21品作った時は自身の成長を感じました。 ・料理レパートリーを増やす努力、掃除スキルアップ、道具など依頼者様にもご案内できるようにしたり。掃除の仕方のレクチャーをしたり。と、できることが増えてきている。 ・同類の依頼を複数件こなしてきて、毎回処理時間が短縮できた。 ・問題が起きた時（時間超過、頭をぶつける等、他）に自分の作業が正しいのかを、検証する様になった。 ・時間のやりくりが上達した。 ・能動的に行動できるようになった。

＊スキルアップの一例として、**約43.3%の人が、タスカジさんコミュニティの一つであり、後輩タスカジさんが先輩タスカジさんから学べる場『タスカジゼミ』を受講していると回答。**
（＊タスカジゼミは、有料で任意で自主的に受講する講座となります。）

（5－8）女性の社会進出への貢献意識について

Q. タスカジさんとして働き始めてから現在まで、
女性の社会進出に貢献できていると
感じることがありますか。（n=134）



76.9%ものタスカジさんが、タスカジさんとして働き始めてから現在まで、女性の社会進出に貢献できていると感じることがあると回答。そのひとつとして、依頼者とのコミュニケーションによるものが大きくあると推測される。（タスカジ依頼者のメインユーザーは、小学生以下の子供を持つ共働き世帯のため）

＜項目（1）～（4）の調査概要＞
■調査名：「ジェンダー平等や働きがいにおける、SDGs（5）と（8）の実態調査」
■実査時期：2020 年 12 月 17 日（木）～2020 年 12 月 20 日（日）
■調査方法：インターネット調査
■調査対象：タスカジユーザー（依頼者） 20～70 代の既婚女性
■回答者数：237 名

＜項目（5）の調査概要＞
■調査名：「タスカジさんの働き方・スキルアップについての意識調査」
■実査時期：2020 年 12 月 17 日（木）～2020 年 12 月 20 日（日）
■調査方法：インターネット調査
■調査対象：タスカジユーザー（タスカジさん）20～70 代の男女
■回答者数：134 名

＜本件に関する報道関係者からのお問い合わせ先＞
株式会社タスカジ　広報担当：門出 万里子（もんで まりこ）
Tel：080-7827-9202　E-mail：pr@taskaji.jp